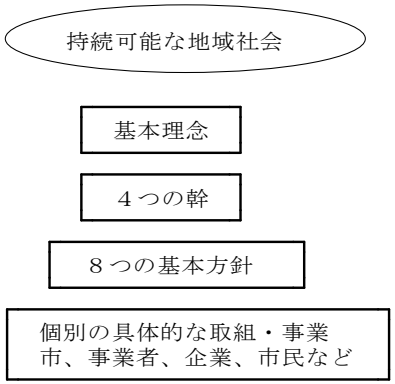
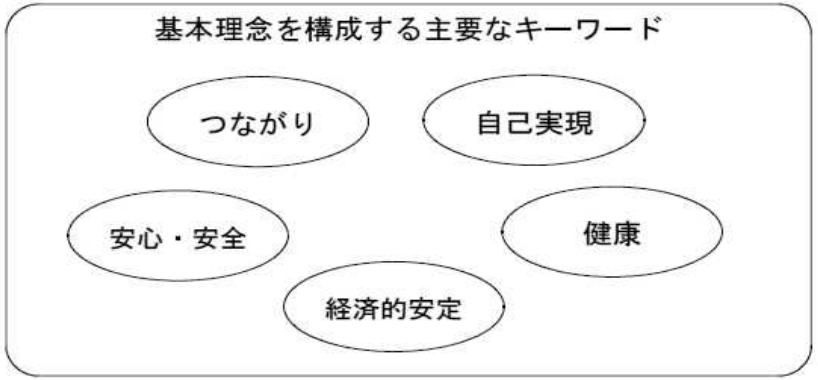
行動計画推進委員会委員から提出された意見への対応

種別	意見等	意見等への対応
基本理念を構成するキーワードについて	中核指標について、基本理念を構成するキーワードの中に新たな「つながり」を付け加えた点は良い。	無
エイジフレンドリーシティの推進全般について	エイジフレンドリーは市政の重要項目の一つとして位置づけられていることから、全体像(方針、具体的施策、市民への周知方法、現状把握・評価等）について組み立て、長期計画を作成した上で単年度の計画、予算、評価方法を策定することが重要ではないか。各論について机上論に費やすことなく、大局的見地からの議論はされているのか。市民の目からは議論されているように見えない。	エイジフレンドリーシティの実現のための考え方や方針は、平成２５年８月に策定した秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画に体系的に整理されており、計画期間内(５年間）での計画、実施、検証、改善のＰＤＣＡサイクルによる進行管理で継続的に取組を進めることとしている。今後、第１次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の検証及び改善により、より長期的視野に立った上で、第２次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画を策定したいと考えており、ぜひ行動計画推進委員会からもご協力をいただきたい。
エイジフレンドリーシティの推進全般について	市民にとって目に見える施策を実施すべきである。そのためには、経営資源（人・モノ・金・情報）をさらに充実し、新たな発想や知恵を活かした実行力が求められる。	平成２７年度は新たに、市と連携してエイジフレンドリーシティの実現に取り組んでいこうとする企業・事業者等を「エイジフレンドリーパートナー」として登録し、企業・事業者等の継続的な取組を支援する「エイジフレンドリーパートナーづくり推進事業」、地域に活躍の場を求める高齢者(リタイア層）のコミュニティ活動を新たに創出・支援し、地域の担い手として、課題解決に主体的に取り組む体制を構築する「高齢者コミュニティ活動創出・支援事業」に取り組むこととしている。これらの事業の進めることで、行政・企業・団体・市民がそれぞれの役割のもと、協働でエイジフレンドリーシティの推進が図られると考えている。なお、「高齢者コミュニティ活動創出・支援事業」では東京大学高齢社会総合研究機構と連携して実施することとしており、学術的視野と研究結果に基づいた提案を活かしながら進めるものである。
エイジフレンドリーシティの推進全般について	行政ばかりではなく、市民や企業・団体の理解と協力を得ながら、連携を進めて目に見える成果が上がることを期待する。そのためには、市民や企業・団体に対する情報提供が重要と考える。	
指標体系について	基本方針４　「高齢者の社会参加をはかります」のアウトプットについて 「地域活動に参加していない人の割合」となっているがここは「地域活動に参加している人の割合」のほうがふさわしいのではないか。	「地域活動（地域での自治活動や市民活動）に参加していない人の割合」を「地域活動（地域での自治活動や市民活動）に参加している人の割合」に修正し、実績値は「秋田市地域福祉市民意識調査」データを活用して集計することとする。
指標体系について	基本方針４「高齢者の社会参加をはかります」の補助指標が、「地域活動に参加していない人の割合」とあり、マイナス指標に違和感を感じる。	

種別	意見等	意見等への対応
指標体系について	基本方針４　「大学で社会人向けに開催されている講座数」とあるが、「社会人向け」ではなく65歳以上の人の参加が可能な講座の割合」あるいは「数」としたらどうか。	現在、秋田市内各大学で開催されている公開講座の受講資格は、一部を除き制限を設けていない場合が多く、「社会人向けに開催されている講座数」を「65歳以上の人が参加が可能な講座数」としても違いはでないものと考え、変更は行わない。なお、全体数を母体として「割合」を出すと、上記のことから１００％に限りなく近い数値になるため、「割合」ではなく「数」を採用することとし、変更は行わない。
指標体系について	基本方針６　日常的にボランティア活動を行っている高齢者数だが、これは「全ボランティアのうちの割合」としないと、年々高齢者の絶対数が下がると、この数値が下がっていく恐れがある。	介護支援ボランティアについては、「要介護認定を受けていない65歳以上のうち、介護支援ボランティアに登録し活動を行っている人の割合と実人数」ファミリーサポートセンター、子育てボランティアについては、「65歳以上のうちファミリーサポートセンターに登録している人の割合と実人数」「65歳以上のうち子育てボランティアに登録している人の割合と実人数」に修正し、割合と実人数の両方を活用する。
指標体系について	同様の懸念が「シルバー人材センターへの登録会員数」にも言えるのではないだろうか。	シルバー人材センターへの会員登録は原則として60歳以上の方としているため、「60歳以上のうちシルバー人材センターへ会員登録している人の割合と実人数」に修正し、割合と実人数の両方を活用する。
指標体系について	基本方針４，６の「社会参加」と「市民参加」という文言について。 前回出た意見への対応にも書かれていたが、どうも釈然としない。WHOの「アクティブエイジング」の提唱について日本語訳をすると説明のようになるのかもしれないが、日本人の普段使っている「社会参加」と「市民参加」ということばの理解とは違っているように思える。どうしても「本市においても、この定義に準じることとする」のであれば、市民が混同しないように、言葉の説明を併記していただきたいと思う。	必ずしもWHOに準じなければならないものではないと考えるが、現行の秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画では、WHOの定義に基づき「社会参加」「市民参加」を使用し、行動計画施策体系を整理している。このため、現計画期間内は言葉の変更等は難しいものであり、今回の中間報告書では脚注を加えることで、誤解が生じないように配慮する。また、今後も同様の配慮を行っていく。
指標体系について	基本方針４、６の社会参加と市民参加の違いについて、ＷＨＯの提唱を引用しているが、わかりづらい。	

種別	意見等	意見等への対応
中間報告について	P.1の　２　エイジフレンドリー指標とその必要性の６行目 「意識変化を促し」というのは「行政から市民への上から目線」を感じる。P2の（２）にあるように、目指すべき方向性や目標を「共有する」という書き方にできないか。市民自らが気付きを得ることへの情報提供ではないだろうか。	「今後、エイジフレンドリーシティの取組を着実に進めるためには、現在の秋田市が抱える課題と取り組むべき内容、見込む成果等について、市民に分かりやすい形で伝え、進むべき方向や目標を共有しながら、~~意識変化を促し~~、社会全体でエイジフレンドリーシティ活動を進めることができるような手立てを講じていくことが必要です。」と修正する。（下線が追加部分、取り消し線が削除部分）
中間報告について	Ｐ７　他の指標はないか 「エイジフレンドリーシティ」が「高齢者にやさしい都市」をめざすのならば、高齢者が「本市で歳を重ねていくことの安心感」という要素も入れられないだろうかと考える。「病気や身体的不自由になった時の安心感」や「最低限の生活が可能な経済的裏付け」なども聞いてみたい。これはまさに「秋田市で安心して歳をとれるか」、ということになると思うが、これは要素が多すぎて、また人の感じ方も多様なので難しいとは思う。これは第２群ということで２７年度以降の検討になるだろうか。	「秋田市で安心して年齢を重ねることができるか」については、経済的要素、医療や福祉体制、家族や地域との関わり方など、様々な要素と個人の価値観などが関係しているものと考える。「病気や身体的不自由になったときの安心感」「最低限の生活が可能な経済的裏付け」等については、第２群指標の基本方針８で検討可能と考える。第４回行動計画推進委員会において、各員の御意見を伺った上で方向性を定めたい。
指標について	標題は、「秋田市エイジフレンドリー指標体系」　となっている。市で、【シティ】を付す場合と、付さない場合の基準を準備しているかと思うがどうか。	各指標については「高齢者にとってやさしいかどうか」を測る物差しと考えることから、シティを付さないものである。
指標体系について	基本方針５「あらゆる世代が・・・・」の中指標の「年を重ねることを・・・・」は「年齢を重ねることを・・・・」とした方がよいのではないか。	基本方針５の指標について「年齢を重ねることを肯定的に捉えている人の割合」に修正する。
「第３回行動計画推進委員会での意見への対応・主な変更一覧表」について	２　その他の主な修正点 種別　・・・基本方針４補助指標 修正後・・・文化・生涯学習などの社会活動に参加している高齢者の割合となっているが、小冊子「中間報告書」（案）ｐ１１　には、「文化・生涯学習などの社会活動に参加した高齢者の割合となっている。これはコピーする際のミスではないか。	送付した「第3回行動計画推進委員会での意見への対応・主な変更一覧表」の中で、修正後を「過去一年以内に趣味・スポーツ・文化・生涯学習などの社会活動に参加している高齢者の割合」と記載したが「参加した高齢者の割合」の誤りであったため、訂正させていただく。よって、中間報告書(案）は修正しない。

種別	意見等	意見等への対応
・指標体系について ・中間報告書（案）について	「指標のレベル」について、「中核指標」「中指標」「小指標」と分類しているが、「基幹指標」「中軸指標」「個別指標」としたらどうか。	「指標のレベル」については、ご指摘の通り「中核指標」、「中指標」にいずれも「中」が含まれており、階層がわかりづらい。そのため、「中核指標」を「基幹指標」、「小指標」を「個別指標」に修正する。なお、「基幹」と「中軸」は違いが明確では無いため、「中指標」については修正せずそのままとするが、他に適切な指標名があれば、第４回行動計画推進委員会で御意見をいただきたい。
中間報告書（案）について	ｐ８下段の「イメージ図」については、 ・表の見出し「秋田市エイジフレンドリー指標」のイメージ図とする。 ・「アウトカム」、（両矢印）、「アウトプット」は削除する。 ・右側の三角イラストは削除する。  	・表の見出しを”「秋田市エイジフレンドリー指標」のイメージ図”に修正する。 ・「アウトカム」「アウトプット」については、中間報告書本文でも触れており、階層上位の指標に行くほど「アウトカム」要素が大きくなることを示すものであるため、削除しない。 ・三角イラストについては、様々な指標が想定される中、階層ごとにいくつかの指標を抽出し、本市エイジフレンドリー指標とすることを示すものであるため、削除しない。
中間報告書（案）について	イメージ図で「秋田市の目指す姿（基本理念）」となっているが、「秋田市の目指す姿」は、市総合計画「県都『あきた』成長プラン」で語られるものでないのか。	ご指摘の通り、「秋田市の目指す姿」は、市の最上位計画である総合計画において示されており、秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画は市総合計画と整合性をはかり策定されている。エイジフレンドリー指標を活用することで、行動計画の基本理念の達成を図ることを示すため、「本行動計画において秋田市が目指す姿（基本理念）」と修正する。

種別	意見等	意見等への対応
中間報告書（案）について	「基本理念を構成するキーワード」は「基本理念を構成する主要なキーワード」としたらどうか。	「基本理念を構成するキーワード」から「基本理念を構成する主要なキーワード」と修正する。
中間報告書（案）について	５つのキーワードのうち、「経済的安定」が気になる。６５歳を過ぎても、健康で意欲があれば働ける社会、であるとすれば「安定」は少し踏み込み過ぎではないか。	現代社会における個人の経済的環境は多様なケースが見受けられ、これは高齢者においても同様と考える。行動計画の基本理念を一人ひとりが実感できるためには、経済的要素も重要と考える。
中間報告書（案）について	「安心・安全」の順序についてだが、ネットで検索すると「安全・安心」が圧倒的に多い。聞き慣れた言葉として「安全・安心」としたらどうか。	目的として「安心」、手段として「安全」があると考え、「安心・安全」の順番で使用し修正はおこなわない。
中間報告書（案）について	基本理念を構成するキーワードを、「健康」「経済的安定」「安心・安全」「自己実現」「つながり」としているが、順番は「安心・安全」「健康」「経済的安定」「つながり」「自己実現」とした方が、身近なものから精神的なものへ、となってわかりやすいのではないか。 イラストの順番も上左「つながり」、上右「自己実現」、下左から「安心・安全」「経済的安定」「健康」としたらどうか。	基本理念を構成する主要なキーワードは、「安心・安全」「健康」「経済的安定」「つながり」「自己実現」の順とする。イラストは下記のとおりとする。 

種別	意見等	意見等への対応
社会の進歩について	人口減少で密度感がなくなってくると、これまでの都市のようないい意味での緊張感がなくなってくる。そうすると生物学的な進歩はゆっくりとしたスピードになる、技術の進歩もゆっくりとしたスピードになるのではないか。それは私たちにとっては、困る面もあると感じる。（全体読んでの感想・意見）	無
世代を超えて耳を傾ける社会	私たちの暮らす住環境は大きく三つの要素、ヒトとモノとシゼン、で構成される空間や場所と考えられるが、ヒトの作るモノは、その関係性だけで考えると、どの場所でも関係なく似通ってくるようだ（例えばコンピューターといった商品化）。そのため特に、ヒトの作るモノがその土地のシゼンに影響を受けた状態に、その場の固有性や地域性が現れると考えられる。年配の方々とお話をしていて感じることは、高齢者の方ほどその土地の自然に鋭敏で、つまり人間社会（関係）のアクが抜けて、人と自然の関係に造詣が深いように思われることだ。何らかの方法で、その造詣を引き出す、抽出して、地域の固有性を再発見するヒントにできないかなと思う。その体系から、おそらく秋田市の総合計画とエイジフレンドリーシティ、その他の多岐に渡り有機的な関係性を生み出せるのではないかと考える。（全体を読んでの感想・意見）	無